

地球地図プロジェクトについて

○地球地図プロジェクトについて

地球地図プロジェクトは、地球環境問題の監視・分析等に必要な地球に関する基盤的な地理情報のデータベース（地球地図データ）を世界各国の国家地図作成機関の自発的協力の下で整備するプロジェクトで、日本国の国土交通省（当時は建設省）が平成4年に本プロジェクトを提唱し始めました。

プロジェクトの進行管理は地球地図国際運営委員会（委員長：フレーザー・テイラー氏（カナダ国カールトン大学教授））が担当し、事務局は日本国国土地理院が務めています。現在の参加国は179カ国・地域、データ公開国数は52カ国・地域です。

平成20年中の全球陸域のデータを含む地球地図データ（第1版）の完成・公開を目指し、取組みを進めています。

○地球地図データの内容について

地球地図プロジェクトで整備する地球地図データは、以下のような特徴があります。

- ・ 1 kmの解像度（縮尺100万分の1の地図に相当）
- ・ 8つのデータ項目（海岸線・行政界、交通網、標高、河川・湖沼、人口集中地区、土地被覆、植生、土地利用）
- ・ 地球の全陸域を統一仕様でカバー
- ・ 5年ごとに更新

○地球地図の利活用促進の取組みについて

国土交通省は、平成15年に有識者からなる地球地図アプリケーション戦略委員会（委員長：月尾嘉男東京大学名誉教授）を設置し、データの利活用を促進するための行動計画である「地球地図アプリケーション戦略」を平成16年に策定しました。

これまで、この行動計画に基づき、環境、防災、教育等の各分野において、地球地図の認知度を高め、一般の方の利活用拡大のための取組みを行ってきました。本シンポジウムもその一環として開催するものです。

○主な利用用途例

（1）地球環境分野

例：土地被覆データ等により、砂漠化、熱帯雨林の減少等の進行状況把握

（2）防災分野

例：スマトラ沖大地震等の広範囲の自然災害の被害状況把握

（3）政策立案

例：土地利用や水資源の変化を将来予測することにより、適切な政策立案の基礎資料として活用

（4）教育分野

例：「地球地図の学校」※、「地球地図コンテスト」等の教材として活用

※ 日本の学生と、フィリピン、タイの学生との交流授業

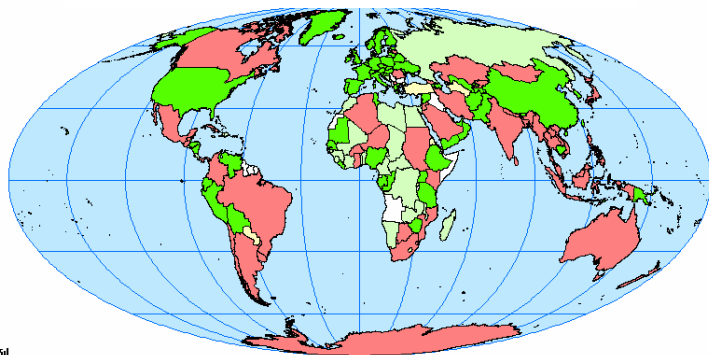
地球地図プロジェクト

日本が提唱

【世界各国の協力で整備】

現在、179カ国・地域の国土地理院が参加
52カ国・地域のデータを公開
地球地図国際運営委員会が推進（事務局は日本国国土地理院）

【地球地図プロジェクト進捗状況】



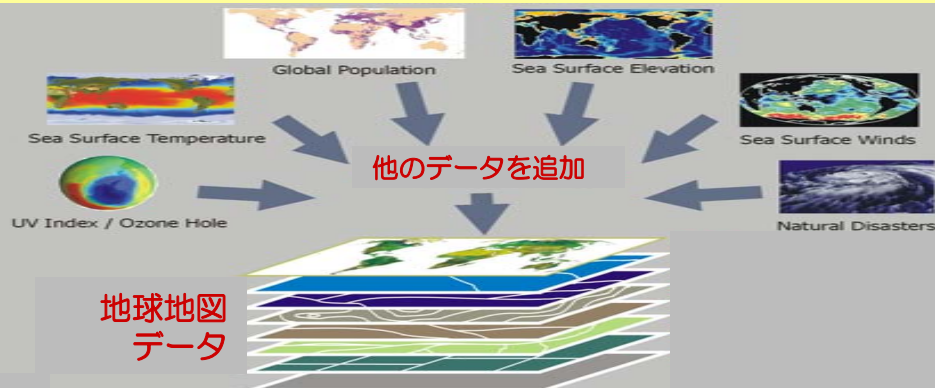
凡例

■ データ公開中 ■ プロジェクト参加既検討中
■ データ検証中 ■ プロジェクト未参加
■ データ作成中

地球地図は、地球環境問題解明に必要な地球の基盤地理情報DB

地球地図とは・・・

- 1 kmの解像度（縮尺100万分の1相当）
- 8つのデータ項目（海岸線・行政界、交通網、標高、河川・湖沼、人口集中地区、植生、土地利用、土地被覆）
- 地球陸域を統一仕様でカバー
- 5年ごとの更新



地球地図データ、又は地球地図データに目的に応じた他の観測データ等を組み合わせると、砂漠化等の地球環境のモニタリングが可能

1992年

日本が提唱

2002年

ヨハネスブルグサミットで地球地図整備のための行動が奨励される

【データ整備へ向けた足取り】

2008年

データ完成予定
(第1版)